



安心ほっと便り



関西大学
社会安全学部

京丹波町の「安全・安心まちづくり」を支援している
関西大学社会安全学部の取り組みを随時お伝えします

Series 20

豪雨の教訓を次代に ~上乙見にて継続調査~



発災から1週間後、川で戸板を洗いました 2021.8.11. ヒアリング調査

2018年の七夕豪雨では、和知の上乙見区で土砂災害が発生し、人家に被害が及びました。住民のみなさんは、明け方、消防団のかたの助けも借りながら、まさに“危機一髪”の状態^{ぎょうこう}で難を逃れることができました。全員の命が無事だった僥倖は、豪雨避難の成功事例として内外で高く評価されました。しかし、「勝って兜の緒を締めよ」の格言どおり、ここで油断してはいけません。“危機一髪”の事態は、次も助かることを保障してくれるものではありません。

「同じことをしていれば大丈夫」とは限らないことを肝に銘じて、上乙見では、避難体制の見直しを続けています。

余裕避難

警戒レベル0が大事

早期に警戒・早期に避難

じっくり危難が去るのを待つ

段階的に警戒を解く

空振り許容・こころの余裕

普段から関心をもつこと、これを「警戒レベル0」と呼んでいます。早めに動き、避難先でじっくり待ち、徐々に警戒を解く。情報が外れても、これは訓練だったと前向きにとらえる。こころの余裕を重視した“余裕避難”の実行を！



近藤誠司 准教授

祝 京丹波町×社会安全学部 包括連携協定 3年!

2018年9月20日に、「安全・安心なまちづくり」を進めるために締結した包括連携協定。あれから、丸3年が経過しました。番組やCM制作、講演会や交流会など、様々な取り組みを行ってきました。小学校とコラボした授業などにもチャレンジしています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。